

おのころ健康だより

『薬不足』

2025年一月十日の神戸新聞にインフルエンザが流行していることと、インフルエンザの治療薬不測の記事が出ていました。

インフルエンザに限らず、薬不足は数年前から始まっています。

今回は「薬不足」の原因や今後の情勢に関して考察したいと思います。

◎薬不足のきっかけと時期

きっかけとなったのは、二〇二〇年一月に発覚した、ジェネリック(II後発医薬品)のメーカーの品質不正問題です。その後、ほかのメーカーでも決められた製造工程を守っていないなどの製造上の不正が次々と明るみになりました。

薬の製造が止まったことに加えて、新型コロナウイルスやインフルエンザの流行も拍車をかけ、かつてない規模で医薬品が手に入りにくい状態が続いています。

◎薬を増産できない原因

① 人手不足

② 多品目生産

③ 設備投資出来ない低い利益率

④ 原料の供給不安

などが言われています。

◎薬の利益率の低さの原因

薬の価格「薬価」は国が決めています。

毎年、国が「薬価」を見直す判断のもとになっっているのが、製薬メーカーや卸、薬局などの間で行われる自由な取引価格です。

同様の効果を持つ薬を扱う他社との販売競争を勝ち抜くため、一部の薬では値下げ競争が起こります。すると、その下がった取引価格をもとに国は薬価を引き下げます

同様の効果を持つ薬がない場合には原料費や製造経費などを考慮して薬価が決められます。

◎原料の供給不安

薬の原料の多くは中国やインドに頼っているようです。コスト削減の結果、原料の供給を特定の国に頼ることになりました。

そこに、国際関係の緊張や感染症、自然災害などにより、薬の原材料の調達網が不安定になったことで、世界的な薬の奪い合いが起きたりしています。

こうした事態を受けて国は、

二〇二〇年度から抗菌薬の原薬や原材料の製造を担う事業者を支援。

二〇二二年には、経済安全保障推進法に基づいて、国が抗菌薬の原薬を半導体などと同様に、安定供給の確保が必要な「特定重要物資」に指定しました。

◎コストの問題

国産の原薬では、中国製と比べて5倍から8倍前後の原価となることが想定されています

◎オステオパシー創始者

A・T・ステイルの教え

『健康のために必要な治療薬はすべて人体の中にある』

『リンパ系の神経の働きによって胆汁、糖、酸、アルカリ、骨、筋、結合組織を生成するに必要な物質が結合される。』

これらを構成する要素は、別の物へ変えられ、ある場所に留められ、集められ、そして組み合わせられて、動物の生命を維持し、洗い流し、塩づけし、甘味づけし、科学的、電氣的、大気、気候環境によっておこる腐敗や死の状態から保存するために**必要な化学合成物を産生する**』

糖尿病の方のインスリンなど、身体からの提供不足を補うような薬は別ですが、理想としては普段の食事などの生活習慣で健康を保つて、薬不足の状況と関係なく生活していきたいものですね。